

科目名	保育者論		担当教員	龍崎 忠	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1CSR312
期待される学修成果	基礎教養 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	園での指導・助言の経験を生かし、子どもの最善の利益を実現する保育者のあり方について受講者とともに検討する。				
到達目標及びテーマ	<p>【到達目標】</p> <p>①保育者の役割・倫理・制度的な位置づけについて理解することができる</p> <p>②保育者の専門性の理解をもとに求められる保育者像の土台を形成し、その必要性を説明できる</p> <p>【テーマ】</p> <p>「子どもと成長する保育者」像の形成と保育者としての自己理解</p>				
授業の概要	<p>①保育者の仕事を具体的に学ぶなかでその役割・倫理・制度的な位置づけについて学ぶ</p> <p>②保育の専門職性を子どもとの具体的な関わりにおいて理解する</p> <p>③保育者としての自己イメージを深く温かく育む</p>				

授業計画	
第1回	保育者になるということ(1)：保育者の役割とは(教科書第1章前半)
第2回	保育者になるということ(2)：保育者の制度上の位置づけと倫理について(教科書第1章後半)
第3回	保育者の一日(1)：保育者の専門性をめぐって(教科書第2章前半)
第4回	保育者の一日(2)：保育者の専門性をめぐって(教科書第2章後半)
第5回	子どもの思いや育ちに寄り添う：保育者の専門性をめぐって(教科書第3章)
第6回	子どもと一緒に心と体を動かす(1)：省察する保育者(教科書第4章前半)
第7回	子どもと一緒に心と体を動かす(2)：評価とカリキュラム・マネジメント(教科書第4章後半)
第8回	子どもを文化・自然とつなぐ：改めて保育者の専門性とは(教科書第5章)
第9回	保護者や家庭とつながる：保護者との協働(教科書第6章前半)
第10回	地域社会・専門機関とつながる：地域との協働(教科書第6章後半)
第11回	学び合う保育者(1)：同僚との協働(教科書第7章前半)
第12回	学び合う保育者(2)：生涯発達の視点(第7章後半)
第13回	保育の専門性を問い直す(1)：キャリア形成と専門性の発達(教科書第8章前半)
第14回	保育の専門性を問い直す(2)：保育者としての自己イメージ(教科書第8章後半)
第15回	全体のまとめにかえて：子ども/保育者のための哲学

事前学修	2時間	教科書の当該部分を読んでおき、うまく理解できないものをピックアップすること
事後学修	2時間	事前に理解できなかったものを再確認して、当該内容の理解を深めること
フィードバックの方法	リアクション・ペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて全体でシェアする。	

成績評価方法	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	期末レポートを実施する
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎回テーマに係るワークを交える
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育者論	汐見稔幸・大豆生田啓友	ミネルヴァ書房	9784623083329	なし
参考資料	初回の授業にて参考文献一覧を配布する。また必要に応じて他の資料を配付する。			